



## 校歌

作詞 寺田 彰司

曲 旧制一高寮歌

「アムール川」

一 千秋の雪積もりたる  
富士の高嶺の雄姿ぞ  
幾万代の後までも  
変わらぬ誠の鑑なる  
奔流百里石をかみ  
巖に激しいや増しに  
勢加わる利根の水  
これ剛健のためしなり  
あ、此の山と此の川と  
日夕眺むる健男児  
自然の示す巨人をば  
如何に学ばん習わなん  
白幡台の雪月花  
四季の折々常総の  
平野にしるく輝くは  
高潔無垢の別天地  
石段登る六十余  
一足ごとに踏みかため  
心を鍛え身を練りて  
忠良有為の基たてん



## 目次

|                |    |
|----------------|----|
| 会長挨拶……………      | 2  |
| 令和7年度総会報告…………… | 3  |
| 令和8年度総会案内…………… | 5  |
| 恩師を訪ねて……………    | 6  |
| 同窓会便り……………     | 7  |
| 母校の想い出……………    | 9  |
| 母校と私の人生……………   | 15 |
| トピック①⑤……………    | 16 |
| 読者プレゼント①②…………… | 20 |
| 進路状況……………      | 21 |
| 附属中学校……………     | 22 |
| 部活動の主な成績……………  | 23 |
| 定時制より……………     | 23 |
| 編集後記……………      | 24 |

## 「協力金」納入のお願い

会員相互の親密提携を図り、  
母校を後援することを目的とし  
た同窓会事業を円滑に遂行でき  
るように皆様のご理解とご支援  
をよろしくお願い申し上げます。

## 「協力金」の納入方法

同封の「協力金」振込みのお  
願いをご参照ください。

竜ヶ崎第一高等学校内  
白幡同窓会事務局

〒301-0844 龍ヶ崎市平畑 248

TEL 070-2182-1290

ホームページ <https://shirahata.sakura.ne.jp>

メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com

印刷所：倉沢印刷(株) 題字：中 21 回 秋山 海堂

表紙装画：高 47 回 中川 彩（中島 迂生）

## ご挨拶



白幡同窓会長  
関口 広行

白幡同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は本会並びに母校である竜ヶ崎第一高等学校の充実発展のため深いご理解と温かいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

本年 4 月 5 日、母校体育館で開催されました定期総会におきまして、小倉培夫前会長の後任として会長を務めさせていただくことになりました。もとより浅学非才、身に余る大役で母校と本会の歴史と伝統を鑑みますれば、文字どおり身の引き締まる思いであります。皆様のご支援をいただき、副会長をはじめとする役員とともに精一杯努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回勇退されました小倉培夫氏には、長年のご貢献に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。

今年度の総会は、80 名を超える招待学年の方々に出席していただき、これまでと同じように在校生の吹奏楽部による演奏と応援団及びチアリーダーからの熱いエールを受けた後で審議に入りました。

議事は順調に進み、提案したすべての議案についてご承認いただきました。

ご承認いただきました事業計画に基づき、引き続き会報編集委員会、ホームページ運営委員会、白龍祭委員会、そして企画委員会の四委員会が今年度の事業を推進してまいります。これまで行ってきた事業が中心となりますが、昨年度新たに開催しました同窓生による講演会も継続事業として実施する予定です。

今年度最初の事業として、6 月の白龍祭には、胸に R、背中に校歌をプリントしたボロシャツを身に纏った同窓会有志の皆さんが出店し、今年も好評を博しました。

また、母校後援活動の一つとして全国大会及び関東大会の壮行会に出席し、これら大会に出場する選手諸君に「奨励金」を贈呈いたしました。若い皆さんの活躍は私たち同窓生にとっては嬉しい限りです。

本会が校外幹事を新設し、組織を現在の形態としてから 13 年が経過いたしました。この間、コロナ禍により総会の開催が見送られることもありましたが、主に校外幹事の皆さんのご尽力により会報の充実やホームページの開設、新たな事業の実施など活発に活動を展開してきました。

その一方で、昨今の物価高騰の影響を少なからず受け、財政面では繰越金及び基金残高合計はピーク時の 6 割弱となっており、今年度は基金の一部を取り崩しての予算編成とならざるを得ませんでした。そのため、事業の見直しをする必要は当然のことですが、本会報の送付に合わせてお願いしております。皆様からの協力は重要な財源です。昨年度は約千三百名の方々に協力金をお受けいたしました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。また、なお一層のご協力をお願いする所存です。

7 月には埼玉県立浦和高等学校同窓会を訪問しました。数年前に一般社団法人として組織を強化し、公益財団法人である奨学財団を併せ持つ同窓会組織の運営についてお話を伺えたことは、当会の今後の組織のありようを検討する上で実に有意義なものでした。

また、今年度は同窓会名簿を発行することとしており、ご希望された皆様のお手元にお届けいたします。

さて、会長職を引き受けしてから創立百周年記念誌「星霜百年白幡台」を読み始めています。千ページに及ぶそれは、企画から発行に至るまで 5 年もの歳月をかけて編纂されたもので、当時の編集委員の皆さんの熱意とご苦勞の賜物です。とりわけ興味深く読んだのは、校訓に関することでした。

その意味するところを昭和 40 年、長塚誠道教諭が次のように記しています。その言をお借りしてご紹介させていただきますと、「誠実」は、いつわりなくまめやかなこと、人のこころのまことであり、「剛健」は、心のつよくすこやかなこと

とであり、男らしさという肉体的な強健をさすものではなく、心の強さ、正しさを示すものということです。

「高潔」は、けだかくいさぎよいこと、高尚で潔白なこと、これこそ教養豊かな気高さと品格のよさを示すものであり、「協和」は既に女子生徒も在学中なので、互いに励ましあつて仲よく学んでいく精神を表す意味で追加されたということです。

これまで深く考えることがなかった自分を恥じるとともに、「故きを温ねて新しきを知る」の箴言を思い浮かべ、そのことの大切さを思い知らされています。

今年は戦後 80 年です。我が国を取り巻く国際環境が厳しくなっている中で、格差が急速に拡大し、社会は大きく変容しています。また、情報通信技術の進歩と人工知能の発達には目を見張るものがあります。

このような社会情勢の下、母校は県立高等学校改革プランに基づく附属中学校開設から早 5 年が経過し、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）3 期目は、科学技術人材育成重点枠とされるなど、社会の変化にシなやかに対応している様子は頼もしく感じられます。これからは一方で伝統を重んじ、他方では常に革新をしつつ、更に発展されることを願つてやみません。

結びに、会員の皆様のますますのご多幸とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

## 竜一の中高一貫教育の完成にあたって



校長  
太田 淳一

卒業生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、本年度は附属中学校が設置されてから 6 年目を迎え、本校の中高一貫教育が一巡する節目の年となります。この 6 年間、私たちは新たな教育の形を模索し、生徒たちと共に歩んでまいりました。特に、記念すべき附属中 1 期生に思いを馳せるとき、同時に私たちの胸に去来するのは、新型コロナウイルス感染症との苦しい闘いの記憶です。

彼らを迎え入れた令和 2 年度は、期せずして未曾有の事態と共に幕を開け、彼らの中学校生活はまさに「ウィズコロナ」という言葉とともにあるものでした。世界保健機関（WHO）がパンデミックの緊急事態終了を宣言するまでの約 3 年間、彼らは様々な制約の中で学校生活を送らざるを得ませんでした。行事や部活動が制限され、友人との交流も思うようにできない日々。しかし、そのような困難な状況下



でも、彼らは粘り強く学び、成長を続けてくれました。高校の教育課程に進学し、ようやく活動の制限が緩和され、生徒らしく行事や部活動に熱中できるようになったのも束の間、彼らは早くも大学進学という次の目標に向かって、ひたむきに努力を重ねています。

感染症が5類に移行し、学校生活に制約がなくなつてから、はや2年。コロナ禍の後半には、「学習損失」という言葉が盛んに議論されました。休校措置などによつて失われた学習機会が、子どもたちの将来や社会に不利な影響を与えるのではないかと懸念です。

す。その中で、もしかしたらコロナ禍によって、足踏みする状態があつたかもしれません。

しかし幸いなことに、本校には生徒たちが集団で活動し、経験を積み重ねてきた実績があります。白龍祭、飛龍祭といった学園祭をはじめ、修学旅行、野球応援、フィールドワーク、そして探究活動など、大小様々な行事が年間を通じて展開されます。複数の学年を対象とした任意参加の課外活動も数多く実施しています。さらに、少子化が進む現代において、チームスポーツの継続が困難になる学校も少なくない中、本校では現在、十分な部活動のレパートリーを用意することもできています。とりわけ附属中の設置により、6歳差の子どもたちが共生する環境にあることは、生徒一人ひとりの個性や成長のペースを包摂する意味で、たいへん恵まれた状況にあると言えます。

実は、「コロナ禍以降、生徒集団の動きが変わつた」という話が教育関係者間で出ることがあります。多様な他者と適切な距離を保ち、豊かな人間関係を築いていくことは、社会で生きていく上で必要不可欠なスキルであり、行事や部活動を通じて社会性を育むこともまた、学校教育に期待される役割です。生徒たちは、「みんな」の一員として安心感と楽しさを味わう段階から、上級生を支え下級生を思いやりながら、時に集団から半歩踏み出して自分らしさを追求する段階へと、自立した社会人に向けて目に見えぬ階段を上つていきます。

今後とも流動的で予測困難な時代が続く中、生徒たちが、多様な機会を活かし、成長の喜びを実感しながら、充実した学校生活を送つてくれることを願つてやみません。特に、これまで誰も経験したことのない困難を乗り越えてきたパイオニアとして、そして、デジタルファースト世代の先駆けとして、苦難を乗り越えてきたコロナ世代の生徒たちが、未来を切り拓く存在となることを心より祈念しております。

が盛んになってきています。サイバーとリアル境界がなくなる中、上のような「経験損失」の影響までもが、今後は技術の力で最小化できるのかもしれませんが。これからは繰り返されるだろうディスラプションに負けない学びの実現に向け、学校としてもあくなき挑戦と探究の旅路を歩んでまいります。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々のご健勝を祈念して、挨拶いたします。今後とも変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

### みなさまの知識・経験で 母校をい支援ください

少子化による学校の規模縮小等が相次ぐ中、本校では地域と一体になつた先端的な探究活動（SSH指定）を核に、魅力ある学校づくりを進めています。本校のさらなる発展のため、卒業生のみならず、まのご支援をお願いします。経済、国際、デジタル、環境といった領域について、文理問わず知識や経験をお持ちのみなさま、または生徒と共に活動を盛り上げていただけるみなさまは、ぜひ左記よりご登録をお願いします。

### 【竜一スキル・データベース】



<https://forms.gle/nMiXAXGvsqX27VmJ9>

## 総会報告

令和七年度の白幡同窓会総会は、令和七年四月五日、改修された竜ヶ崎一高体育館で開催されました。恒例の応援団・チャリダーによる校歌・応援歌斉唱で始まり、吹奏楽部の軽快な演奏が総会を盛り上げました。

また、総会出席者プレゼント抽選では、校章入り白萩釉鍋湯呑みが当選者に贈られました。養花天の午後でしたが、百十九名の卒業生にお集まり頂き、盛会でした。総会次第は次のとおりです。

- 一 開会の言葉
- 二 校歌・応援歌斉唱
- 三 吹奏楽部の演奏披露
- 四 会長挨拶
- 五 校長挨拶
- 六 記念品贈呈
- 七 招待学年代表挨拶
- 八 総会出席者湯呑抽選及び贈呈
- 九 新任者紹介
- 十 議事
- 十一 令和六年度事業報告・決算報告
- 十二 令和六年度会計監査報告
- 十三 役員改選
- 十四 新会長挨拶
- 十五 令和七年度事業計画案・予算案
- 十六 学校現況報告
- 十七 閉会の言葉

【本部役員】  
会長 関口 広行（高26）  
副会長 倉持 正男（高27）  
大和 佐知雄（高28）  
羽成 邦男（高30）  
有川 保（高33）  
山田 實（高36）  
赤塚 誠（高30）  
齋藤 佳郎（高8）  
小倉 培夫（高20）

監事 山田 誠（高30）  
顧問 齋藤 佳郎（高8）  
幹事 山崎 睦（高31）  
副幹事 櫻井 篤美（高29）  
篠塚 文男（高28）  
川口 浩己（高29）  
大野 雅之（高30）  
大野 雅彦（高31）  
小嶋 吉浩（高31）  
福田 道義（高31）  
本田 仁子（高31）  
岡田 晋（高32）  
宮本 順紀（高32）  
霜村 裕通（高33）  
武田 早苗（高33）  
磯山 佳美（高34）  
大野 金人（高35）  
坪井 龍夫（高35）  
福島 正明（高35）  
泉 由美子（高35）  
海田 磨起代（高36）  
松本 光弘（高36）  
板橋 圭子（高36）  
岩崎 卓士（高37）  
菊地 耕（高37）  
村上 潤（高36）

【校内幹事】  
幹事長 村上 潤（高36）

令和 6 年度 白幡同窓会収支決算書

令和 7 年度 白幡同窓会予算書（案）

収入総額 6,389,268 円  
支出総額 5,765,743 円  
差引残額 623,525 円（次年度へ繰越）

収入総額 5,924,000 円  
支出総額 5,924,000 円

(収入の部)

(単位：円)

(収入の部)

(単位：円)

| 科 目   | 本年度<br>予算額 | 本年度<br>決算額 | 比 較    |        | 摘 要  |
|-------|------------|------------|--------|--------|--|
|       |            |            | 増      | 減      |  |
| 1 繰越金 | 2,116,507  | 2,116,507  |        |        | 令和 5 年度より繰越<br>会計用 2,116,507円<br>常陽銀行（普）                                   |
| 2 入会金 | 1,404,000  | 1,434,000  | 30,000 |        | 全日制<br>6,000円×234名=1,404,000円<br>定時制<br>6,000円×（3+2）名=30,000円              |
| 3 協力金 | 2,800,000  | 2,787,000  |        | 13,000 | ゆうちょ銀行扱い分 362件<br>837,000円<br>コンビニエンスストア入金分<br>975件 1,950,000円             |
| 4 雑収入 | 493        | 51,761     | 51,268 |        | 普通預金利息 561円<br>名簿売上げ 4,500円<br>記念品 2,000円<br>寄付金 1,000円<br>ポロシャツ売上 43,700円 |
| 合 計   | 6,321,000  | 6,389,268  | 68,268 |        |  |

| 科 目     | 本年度<br>予算額 | 前年度<br>予算額 | 比 較       |           | 摘 要   |
|---------|------------|------------|-----------|-----------|---|
|         |            |            | 増         | 減         |   |
| 1 繰越金   | 623,525    | 2,116,507  |           | 1,492,982 | 令和 6 年度より繰越<br>内訳 会計用 623,525円<br>常陽銀行（普）                     |
| 2 入会金   | 1,500,000  | 1,404,000  | 96,000    |           | 全日制<br>6,000円×238名=1,428,000円<br>定時制<br>6,000円×（9+3）名=72,000円 |
| 3 協力金   | 2,800,000  | 2,800,000  |           |           | 協力金<br>2,000円×1,400名=2,800,000円                               |
| 4 基金取崩額 | 1,000,000  | 0          | 1,000,000 |           |   |
| 5 雑収入   | 475        | 493        |           | 18        | 預金利息等   |
| 合 計     | 5,924,000  | 6,321,000  | △ 397,000 |           |   |

(支出の部)

| 科 目           | 本年度<br>予算額 | 本年度<br>決算額 | 比 較       |         | 摘 要  |
|---------------|------------|------------|-----------|---------|--|
|               |            |            | 増         | 減       |  |
| 1 事 務 費       | 920,000    | 831,623    |           | 118,377 |  |
| 1 消 耗 品 費     | 50,000     | 11,417     |           | 38,583  | 白龍祭参加企画費   |
| 2 支 払 手 数 料   | 300,000    | 264,532    |           | 35,468  | 郵便局支払手数料 64,882 円<br>サラト扱い手数料 199,650 円  |
| 3 印 刷 通 信 費   | 450,000    | 432,074    |           | 17,926  | 同窓会通信切手、葉書代  |
| 4 広 報 費       | 50,000     | 6,600      |           | 43,400  | ホームページ用運用諸費  |
| 5 旅 費 交 通 費   | 100,000    | 117,000    | 17,000    |         | 役員会・委員会交通費   |
| 2 事 業 費       | 4,750,000  | 4,714,728  |           | 35,272  |  |
| 1 総 会 費       | 100,000    | 35,530     |           | 64,470  | 総会出席者用バッグ、<br>総会経費補助   |
| 2 会 報 発 行 費   | 2,900,000  | 3,421,763  | 521,763   |         | 会報 36 号印刷代 (886,380 円)、<br>会報郵送代 (2,525,858 円)   |
| 3 会 議 費       | 150,000    | 48,815     |           | 101,185 | 役員会等経費   |
| 4 招待学年記念品費    | 0          | 0          |           |         |  |
| 5 卒 業 記 念 品 費 | 200,000    | 209,300    | 9,300     |         | 卒業証書ファイル購入代  |
| 6 部活動奨励金等     | 900,000    | 795,000    |           | 105,000 | ※ 20,000 円 +5,000 円×<br>出場人数 (10 万円限度)<br>総会協力 (吹奏楽、応援団)<br>関東 (射撃、陸上競技、<br>吹奏楽、軽音楽、水泳、<br>柔道、スキー、放送)<br>全国 (古道、射撃、サ<br>イエンス、放送、スキー) |
| 7 学 校 行 事 補 助 | 300,000    | 4,320      |           | 295,680 | SSH 関連事業経費   |
| 8 国 際 交 流 基 金 | 200,000    | 200,000    |           |         | 国際交流基金   |
| 3 慶 弔 費       | 50,000     | 33,000     |           | 17,000  | 葬儀生花   |
| 4 基 金 積 立 金   | 500,000    | 0          |           | 500,000 |  |
| 5 予 備 費       | 71,000     | 186,392    | 115,392   |         | 手土産代、持丸修一監<br>督講演会経費、卒業学<br>年懇親会補助   |
| 合 計           | 6,321,000  | 5,765,743  | △ 555,257 |         |  |

科目間の流用を認める  
基金積立金（常陽銀行） 6 年度末積立額 6,003,715円  
合 計 6,003,715円

上記のとおり報告いたします。  
決算報告日 令和 7 年 3 月 16 日  
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会長 小倉 培夫

監 査 書

令和 6 年度収支決算について、監査しましたところ証拠書類、通帳等すべてにおい  
て正確にして適正であることを認めます。  
令和 7 年 3 月 16 日 監事 山田 實 @  
監事 赤塚 誠 @

科目間の流用を承認願います。  
上記のとおり提案いたします。  
令和 7 年 4 月 5 日  
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会会長

## 令和8年度 同窓会総会のご案内

### 令和8年度 白幡同窓会 総 会

- 1 日時 令和8年4月4日（土）午後2時 開会予定
- 2 場所 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 体育館

令和8年度の総会については、4月4日（土）午後2時から竜一高体育館にて開催する予定です。

今回ご案内の往復葉書を差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、令和8年度の招待学年である高校19回・29回・44回・59回・69回及び定時制15回・25回・40回・55回・65回の卒業生全員になります。

なお、令和8年度の総会より、会場の体育館に招待学年別の座席を用意することになりました。また、総会後に招待学年別に集まり、懇談できるスペースを用意する予定です。

総会の案内が届かない同窓生の皆様は、右のQRコード、または、白幡同窓会ホームページから参加申し込みができます。

総会申し込み URL <https://forms.gle/UxwF6mpVZLTNnvRa7>



※白幡同窓会ホームページ <https://shirahata.sakura.ne.jp>

そのほか、下記同窓会メールアドレス、または、事務局にご連絡ください。

### オリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」の贈呈

招待学年の出席者の方と70歳以上の出席者の方（1回限り）には、陶芸家・植竹敏氏（高27回）作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

なお、総会に出席された80歳以上の同窓生の方には、もれなくオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

また、招待学年以外の出席者を対象に、抽選で3名の方に上記湯呑を贈呈する企画がありますので是非総会にご参加ください。

### 同 窓 会 懇 親 会

新型コロナウイルス感染拡大前に開催していました総会後の「同窓会懇親会」につきましては実施しないことになりました。

それに代わって、「招待学年単独による懇親会」を開催する場合については、同窓会本部より3万円の補助金を1回に限り、給付することになりました。

なお、日時及び場所等については招待学年幹事等で決めていただき、同窓会本部（下記メール）にご連絡ください。同窓会役員1名がその懇親会に参加させていただきます。

◎上記のことについて、ご不明な点があれば下記にご連絡ください。

白幡同窓会メールアドレス [shirahatadousoukai@gmail.com](mailto:shirahatadousoukai@gmail.com)

白幡同窓会事務局 TEL 070-2182-1290



## 恩師を訪ねて

松本君代先生



山歩会でのミーティング

苦慮する日々は、ハプニングの連続だったとか。勤務は土浦二高と私立茨城中で非常勤講師、下妻養護学校小学部と竹園高では教諭で学級担任。多様なご経験から「褒めたら伸びる！」を感得しました。そして、3人の子育てが終わりがけた45歳の時、竜一高へ赴任。野球好きの松本先生にとってこの異動は長年の希望だったそうです。

恩師を訪ねて第3回は平成3年から13年まで在職なされました松本君代先生です。猛暑続く夏の昼下がり、竜一高白幡会館にわざわざ足を運んでいただきお話を伺いました。

### ★プロフィール

群馬県前橋市で誕生、前橋女子高卒業後は東京教育大学理学部へ進学。

理科と社会科の教員免許を取得して郷里に戻り、高崎女子高で教員をスタート。29歳の時、ご主人の職場移転に伴い本県に転居。親戚知人皆無の地で教職と子育ての両立に

### ★竜一での地学の授業

「初任校では地理と政経の授業を受け持ったため、未知の世界を肌で感じた旅に出ました。最初はソ連とヨーロッパ。土産話や土産物に生徒の目がキラキラするのが嬉しくて、その後も折をみて国内外の旅に。主に地学を担当

した竜一では、集めてきた各地の石や白・黒・赤色の砂などを地学室に並べました。すると生徒からも嬉しいお土産が。野球部員から『甲子園の砂です！』その夏は甲子園で石川の星稜高と対戦し、松井秀喜にホームランを打たれて惜敗でした。部員達とは、甲子園の熱気を思い出しながら全国の出場校を言い合ったことも懐かしい。授業ではジオイドの項で、重力と海水面の関係を実感するためにバケツに水を入れてぐるぐる回したり、黒潮の項では『椰子の実』の曲を私のアコーディオンに合わせて歌ってくれたりしました。打てば響く生徒さん達と楽しかったです」



カムチャツカ登山 (66歳)

### ★学年主任の時の思い出

学年の生徒達と親しく関わる時が楽しく充実した瞬間だったと話す松本先生。LHRの時間にクラス対抗綱引きや、各先生の推しの曲を当てるクイズ大会などを学年団の先生方と企画。この時の先生方とは、今でも時々宴に集い昔話をしておいでとか。

『学年主任の松本君代先生はボーイズ・アンド・ガールズ・ビー・アンビシャス！といわんばかりのテンションで、常に受験生たちにパワフルなエネルギーを与えて下さいました』と、ある教え子の生徒さんも当時の様子を語っています（白幡26号より）。

### ★ご退職後のご様子

「60代はよく山に登りました。南は屋久島の宮之浦岳から北はカムチャツカの世界自然遺産の山まで。また、登山初心者の友人達を筑波山などに頻りに案内していました。しかし、コロナ禍に陥ってからは県内の平地ウォーキングに切り替えて月1回実施。この『山歩会』は、どなたでもいつからでも参加できるゆるい形で、現在も続けています。所々で地形や歴史などを説明したりもしています。因みに

今年1月は龍ヶ崎で『竜鉄に乗り旧水戸街道・若柴宿を歩き、歴史ある金龍寺に寄る』というテーマ。最後には龍ヶ崎コロッケを食べて和やかなひとときでした。茨城県は歴史遺産も多く自然も豊かで、企画に事欠きませんね」



自宅にて (初任給で購入したアコーディオン)

### ★松本先生からのメッセージ

「今80歳の私は、生後1カ月余で前橋空襲に遭い（1945年8月5日）家を焼かれ親族を失いました。それから貧しく大学生まで苦学しました。その体験から『戦争には絶対に突き進まない世をつくること』と『今』を充実して生きること』を強く念じています。この思いを、若い世代の方々にもエールとして送りたいです」

（文責 川口 浩二）

## 同窓会便り

### 高校第十一回

秋山 透

八十歳を過ぎてからの「有志会」も五回目を数えることとなりました。高度経済成長期だった当時、級友たちがそれぞれ立場で大活躍する中、時代に取り残された感のあった我々農家の跡取りたちが中心となり、八人で飲み会を始めたのが始まりです。そ



の後、三十数年の長い休会の後、「会いたいなあ」との連絡で、現職の農家である三人が近在の級友を誘い、八人で会を再会しました。皆は懐かしさと想い出に感謝しつつ「有志会」と名付けました。昨年からは女性にも参加していただき、今年は男女二十四人の参加となりました。来年は250人の級友の多くが参加してくれることを期待し、六月下旬の開催を予定しています。母校見学などを考えていますので、ぜひ、ご連絡をください。

### 高校第十七回

高校第十七回同窓会

柳井 哲也

令和七年七月五日、牛久駅前のエスカードスタジオで同窓会を開催しました。竜一高の現状をよく知る白幡同窓会の副会長倉持正男様を来賓としてお招きし花を添えて頂きました。

昨年の地区同窓会で次回は十七回生全体に呼びかけて実施しようと決まったため早速世話人二名で名簿づくりからスタート。やがて四名となり同窓会開催の葉書を投函した三月二十日頃になると更に増

えて最終的には十名を超えるまでになりました。女性と女性世話人の電話連絡ですぐに十名程の出席者が決定。男性もできるだけ電話募集しながらも百六十五枚の葉書を出しました。六十年ぶりの再会という人が多いと予想できたので、『会員同士の百%交流を達成させるにはどうすればいいのか』に重点を置き会議を重ねました。五月末には五十二名の出席者を数えましたが、出席者全員が顔と名前をしつかり確認し合うには、



名札作成の他に全員に発言して貰うことが有効です。一人三分間のスピーチをするとして五十名では単純計算でも百五十分必要になり、時間不足は致命的です。従って交流時間は午後一時から五時まで四時間を確保することにしました。

最終的に出席者はコロナ感染や体調不良等で四十四名になったものの、七十九歳の人生経験豊富なスピーチは興味深くもっと長く話して欲しいと思うものばかりでした。中間に四十分の休憩時間を取り、倉持様が用意してくれたCDで校歌斉唱をする全員高校生に戻ったかのようでした。所在不明者の資料収集や欠席者の消息等もやりとりができました。

後半に移り、全員のスピーチが終了したのは丁度四時でした。長すぎるかと思った時間でも本当にあつという間のひとときでした。

会費は施設利用料、葉書印刷、写真、軽食等全て含めて五千円。ひとり一人がマイクを持って楽しくスピーチされたので、六十年の空白はかなり埋ったものと感じています。次回の担当も決まり再会を誓って帰途につきました。

### 高校第二十六回

強い絆で結ばれた第二十六回卒業生

赤石 守

令和七年十一月九日、秋の霧雨が静かに降るなか、牛久シャトーにて第二十六回卒業生の同窓会が開かれました。恩師の齋藤佳郎先生、中根宏先生をお迎えし、卒業生五十二名が集まりました。私たちが古希という節目の年でもあり、いつも以上に特別な思いで臨んだ会となりました。

二年ぶりの再会ということもあって、当日の朝から胸が高鳴りました。会場には懐かしい笑顔が並び、最初こそ少し照れながら声を掛け合いましたが、ほんの数分で気持ちのはあの頃のままだ。あちこちで笑い声が弾け、あつという間に青春時代へとタイムスリップしたようでした。

近況を語り合い、昔話に花を咲かせながら、みんなが歩んできた年月の重みを感じつつも、心は変わらず若々しいまま。健康の話題や薬の話も出ていたようですが、それも「お互い元気でいようね」と励まし合える温かなひとときでした。

楽しい時間は本当にあつと



私たち第28回卒業生は令和  
高橋 敏幸

## 高校第二十八回



いう間で、「また会おうね」と約束を交わしながら名残惜しくそれぞれの帰路へ。古希を迎えても変わらない友情と、こうして集まれる幸せを改めて感じた一日でした。

次の同窓会で、またみんなの元気な笑顔に会えることを楽しみにしています。



（富永先生と南畝先生）

7年5月25日に牛久シャトーレストランにおいて同窓会を行いました。1975年3月に卒業して以来、約半世紀たった同窓会でしたので、出席率は約25%でしたが、恩師の富永先生と南畝先生がいらしてくれて大変盛り上がりしました。

な先生の方を見て、高校生の時のように真面目に集中して聞いていました。私も個人的には富永先生には1年生の担任であり、テニス部の顧問をしていただったので、本当に懐かしく話しました。南畝先生には、音楽の先生がいなかった当時の竜ヶ崎一高にあつて、私が2年生の途中から入った音楽部の顧問を軟式野球部と兼任してくださっていたので、これもまた懐かしかったです。

元硬式野球部マネージャーで幹事の宮本さんによる乾杯の発声後、恩師からのご挨拶をいただきました。富永先生からは、「十年一（ひと）昔」という言葉がありますが、この言葉の重みを感じています。私は八昔になり、皆さんは六昔を過ぎ七昔になろうとしている今、こうして集まれるのは、竜ヶ崎一高が良い学校でしっかりしているからです。このような機会を持てることに感謝しましょう」というような話がありました。南畝先生からは、同僚であった松島先生の近況を話していただきました。その後、参加者一人ひとり近況報告をしました。卒業して50年のそれぞれの人生を興味深く聞き入りま

した。同級生の中には、2年生の時に行われた第29回茨城国体の軟式野球で優勝した人、さらには3年生の時、茨城大会を勝ち抜き第57回甲子園野球大会に出場した人がいました。私も精一杯応援したことを思い出しました。「素晴らしいアスリートとも同級生なんだな」と実感し誇らしく思いました。卒業して五昔経過した私たちですが、健康第一で一昔ずつ延ばしながら、また集まることを誓いました。

## 高校第三十回

同窓会通信

「銀座で格安同窓会」

篠塚 繁美

今から10年前57歳の時に同窓会を行った際、3年後の還暦になった時に次回を行うことを決め、案内ハガキを省略するためLINEグループを作りました。

3年後コロナ禍で同窓会は延期となり、その後コロナも落ち着いたのでLINEグループで話を進め、色々と情報を頂き検討した結果、銀座で4時間飲み放題6700円という格安の宴会場が見つかりまし



た。横断幕もサービスで、通信費や名札を入れても会費は7000円で済みます。

周知はLINEグループで100名程度、同窓会名簿で住所が判りLINEに登録してない人へはハガキを送り、また各組2名の幹事には、搜索と連絡をしてもらい総数64名、女性16名と男性よりも高い比率での参加となりました。

その間、幹事会を行わず幹事のLINEグループの打ち合わせのみで当日へ。

4月20日曜日の11時半か



ら、それも着席時から飲み放題なので、最初から盛り上がり各自高校の時の思い出や現状を語り合い、一人一人の挨拶の時には卒業アルバムの写真と、それを元に65歳となった時の写真をパソコンが達者なN君に作って頂き、スライドで流したりもしました。

最初は元応援団のM君の音頭で校歌斉唱。その後2次会、3次会と続き、本当に楽しいひと時を過ごしました。次回もたくさんの方が出席できるようにと願います。

### 第31回卒 (昭和54年3月卒) の同窓会のご案内

山崎 睦  
高校第31回卒の同窓会を計画いたしました。

詳細はQRコード、URLからご覧ください。

幹事・山崎 睦

岩崎 和久

坂本 武久

本田 仁子 (旧姓:坂本)

永山世津子 (旧姓:杉山)



<https://sites.google.com/view/ryu1st31threunion>

## 母校の思い出

遊びは父から  
体力気力があるうちに



高 19 回  
杉野 卓男

高校受験時、父から竜一高に行き、運動部で鍛えなさいと言われました。明治時代に祖父達があの山を用意し、誘致活動の末の学校で縁があるから、というわけです。それで本校に入学、バレーボール部に入りセッターで盛り上げ、変化球サーブで相手を苦しめました。

自家は戦後、田畑を失い、造り酒屋を閉め、乳製品卸業を開業しました。夏場は忙しいので手伝いましたが、冬はスキーやスケートを楽しめました。私が小学校4年、姉が高1の冬休み、父の友人で、谷川岳で遭難者救出で活躍した高波吾策さんが山小屋を営んでいる土樽駅前スキー場で子供4人連れで滑りました。夏、天気予報を調べず家族で銚子へキャンプに。砂利道を長時間走って着いたら台風接近で泣く泣く撤収。父は登山の際、冬山ではスキー板

にアザラシの毛皮をシールして登ったとか。そんな父の葬儀の時に、山友達から山頂でコーヒーを淹れてくれた味が忘れられませんか聞かれ、皆驚きました。

話を戻して一高時代の冬は寒く、流大裏の向池も凍結し、S君、K君と3人で早朝スケートを楽しみました。高2の冬休みに大塚先生引率で10人位で蔵王へ行き、樹氷の間を滑った事、春休みはその仲間と妙高赤倉スキー、更に私は竜ヶ崎スキークラブに入り猪苗代通いを始めました。

3年夏の甲子園野球の試合は父と車で行きました。I君のお父さんはセスナ機で「必勝竜一高」と垂れ幕下げ旋回したファン。これも忘れられません。

卒業後M君は渋谷へ引っ越すというのでI君と手伝いました。大卒後M君は竜一高で指導者の道へ。年中無休で頑張りました。時には息抜きで尾瀬沼ハイク、後々に監督初めての甲子園出場を果たし「時の人」に。

現在は全県巡る旅を終え、北は大雪山、南は開聞岳等百名山登山中です。今春は四国お遍路の旅の際、西日本最高峰石鎚山登山も楽しめました。

そして竜一高の今は附属中学校も加わり、通学姿はリュックに運動靴姿に変わりました。女生徒もかなり増えました。清楚な好感を持てる姿は変わらないで欲しいと願っています。

### 60年前を振り返る



高 19 回  
藤後 茂男

19回卒業生共通の思い出は、三年の夏、野球部が44年ぶりの甲子園出場という快挙であると思います。県営球場や夜行バスで行った甲子園で、応援団指揮のもと何度も校歌を歌い大きな声で応援しました。夏が来るたび、あの興奮、感動を思い出します。まさしく青春でした。そして、目標達成には野球部のように努力しなければと思ったものでした。

今でも鮮明に記憶に残っているのは地学部での活動です。顧問は2、3年の担任でもあった蜂須紀夫先生でした。乗鞍岳登山・東大宇宙線観測所見学・鉱物採集、帰る列車で隣席になった某鉱山会社

の方から鉱床・鉱物についてのレクチャーと地学部の生徒になったのだと実感しました。

また、旧八郷町西光院での球状花崗岩の観察採集は、竜二高と合同の活動であり、淡い思いを持って参加をしたものです。巡検翌日、許可なく県天然記念物の球状花崗岩を採集したと県教委よりお咎めがあったと先生から言われ、岩壁を割って持ち帰った訳ではなく、落下物を拾ってきたことを伝えました。その後、球状花崗岩 (通称小判石) を半分に切断、研磨し現在も大事に手元に置いてあります。

通常の活動とは別に、仲間だけでしかも自転車、筑波山へ柘榴石などを採集に行ったこともありましたが、実際に足がつった人もいたが、実に楽しい一日でありました。

地学部での巡検・実習、仲間と共に活動する楽しさ、蜂須先生の丁寧かつ核心をつく指導など、振り返ると、これらの体験が理科の教員を目指すという契機となったのかと思っています。その後、念願となって教員となりましたが、現職教員研修で、再び恩師の蜂須先生にご指導頂く機会がありとても懐かし、嬉

しい気持ちで一杯になりました。

仕事（教員や教育行政）を大過なく無事終えることでできた今振り返ってみると、同級生、同窓生の方々のご支援、先生方のご指導のお陰と改めて思います。今はただ「感謝」の一言に尽きます。有難うございました。

### 地学部のこと



高 19 回 章  
武田

当時を思い起こしても特筆することも余りないのは、学業にも部活にも熱中することもなく、怠惰な高校時代を過ごしていた証左だと思ひ知らされた。以下乏しい思ひ出を辿ってみる。

1 年時東京五輪の柔道中量級で金メダルを獲得した岡野功選手の優勝パレードで、手を差し出した「ありがとう」と言いつて握手をしてもらい感激した。3 年時には野球部が 44 年ぶりに甲子園出場を果たし、甲子園まで応援に行ったが強い浜風のため外野スタンド高所の応援旗が止め金から

破れ始めたので針金を探し出してやっとポールに括りつけた。2 回戦で報徳学園に惜敗したが、甲子園で母校の応援という得難い体験をさせてもらい野球部には感謝している。

地学部での部活はよく記憶に残っている。蜂須先生ご指導の下、筑波山及びその周辺の山々を歩き岩石採取をしたこと、竜ヶ崎二高の遠藤先生率いる乙女グループと合同でバスに乗り合い地質調査をしたこともあった。3 年時に秩父地方で地質調査をしたことが一番の想い出だ。長瀬で先生旧知の旅館に投宿し、正丸峠を越えて伊豆が岳、武川岳、武甲山を縦走した。ここで山歩き楽しさを知った。帰途西武線の車内で竜ヶ崎一高の甲子園出場決定の報に接し全員で喜び合った。こうした地学部での体験学習がその後の自分の趣味趣向なりを方向付けたと思っている。後年信託銀行に就職し地方勤務を繰り返したが、その地方の博物館などは必ず見学したり一番高い山や名峰に登ったりしてきた。

高校時代には自分なりに心配事や悩みを抱えていた筈なのに、顧みれば卒業後 60 年近い年月のなかでみんな懐かし

く楽しい思い出に昇華している。友人との交流も当時の体験が礎になって現在に至っている。いつ会っても直ぐに当時の自分、仲間に戻れる。3 年間自転車通学だったので、いつか 60 余の石段を一足ごとにしっかりと踏みかため、新装なった母校を訪れてみたいと思っている。最後ですが、竜ヶ崎一高の益々のご発展と白幡同窓会会員諸氏のご健勝を祈念いたします。

### 竜一だったからこそ



高 29 回 隆秀  
荒川

今回の原稿依頼を受けてあらためて高校時代を振り返ってみると、まさに竜一時代が私の人生のターニングポイントであったと感じている。学区外で同じ中学からは私含めて三人、慣れない電車通学もあり入学当初は不安も多かった。しかしすぐに周りと打ち解けることができ、在学中は先生方にも迷惑をかけてばかりだったが本当に楽しい三年間であった。現在も当時の同級生と月一でゴルフを楽しん

でいる。

入学後、中学に引き続きバレー部に入部したその日からバレー漬けの日々が始まった。監督は中根宏先生（中根先生をご存じの方々にはいろいろ説明する必要はないであろう）、合宿では関東大会へ出場された先輩方を中心に毎日の練習は本当に厳しいものであった。しかし今では練習以外の数々のエピソードも良い思い出だ。その合宿に中根先生のお知り合いの教え子の方も参加されていた。当時日体大バレー部で活躍されていたこの方との出会いが私の人生に大きな影響を与えることとなった。日体大でバレー

やったらどうだ？と言われ、元々将来は保体科教員を考えていたこともありそれが現実味を帯びることとなった。中根先生からは「技術的に通用しないからコーチやマネージャーの勉強をしておくこと」と助言を受け、日体大では地獄のような一年生の日々を耐え抜き、四年時には副主務という部の運営的立場となった。

その後は四十年間、東京都立高校の保体科教員として各勤務校で女子バレー部の顧問を続け、高体連の全国大会で

は競技委員長として大会運営の責任者を務めた。現在は小学生チームの監督として、また五十歳以上の全国大会にも現役プレーヤー（六十六歳）として出場している。

竜一に入学したからこそ、このように充実した人生を送れていることに感謝です。



2021 年東京オリンピック会場にて  
教え子で現男子バレー日本代表コーチと

「感性は高校生までに 90% 出来上がってしまう説」について

### 高 29 回 稲本 義則

あるラジオ番組を聴いていたところ、アーティスト系のゲストが放った言葉である。この説を検証すべく、高校時代を思い起こし 66 歳となった現在の私と項目ごとに照らし



合わせてみたいと思う。

**音楽** 音楽評論家の渋谷陽一氏が7月に亡くなった。大貫憲章氏とともに私の憧れの的だった。私は中学生時代から洋楽に惹かれ高校でも同好の士(JM氏など)と時を惜しんで語り合っていた。帰宅するとFMラジオ、FENにかじりついて深夜までザッピング。将来、海外アーティストのアルバムの曲目解説を書くことを夢見てあらゆるジャンルの音楽を聴いていた。夢はかなわなかったが現在もクラシックからロック、ジャズ、民族音楽等、そして当時は聞いていなかった昭和歌謡(東京大衆歌謡楽団を推奨)も聴くようになった。そして聴くだけに留まらず、同級生の旧姓、秋山・堀田・小泉さんら主催のコンサートに声楽で出演、皆様のお耳越しをしている。(2026年9月最後のコンサートを開く予定)

**テニス部** 私は練習の時、無心にボールを追っていることに一番幸せを感じていた。よってメンタルの弱い私は試合では全くダメ(MU氏すまん)。現在毎月1度、その仲間とテニスならずゴルフを楽しむんでいる。他の誰とするよりも楽しい。テニス部は毎年8月OB会(5学年いる)を開催している。今年もお元気な富永先生を囲んで病氣自慢をしつつ楽しい時を過ごした。

**恋愛** 携帯のなかった古き良き時代。朝日が差し込む教室の白いカーテン。登下校の細い横道。浪川のゴムソバ(失礼!)、淡い恋心を抱いた甘酸っぱい季節。未だに高校時代を描いた、日・韓・台湾のドラマ・映画の沼にはまっている。

**有志による聖書研究会** があったのだ。牧師の子であった私は誘われるままに参加していた。3年生の夏に洗礼を受けた。現在所属する土浦めぐみ教会の教会学校で中高生の教師を30年ほどしている。今夏は韓国ソウルにある姉妹教会と、日韓合わせて100名近い中高生と合同キャンプに参加。高校生の瑞々しい感性を目の当たりにし、懐かしいやら嬉しいやら羨ましいやらであった。

**その他** 3年の担任だった中根先生、副担任のあの専松、持丸先生も時々お招きして2年ごとにクラス会を開いている。また竜一29会、竜一会と称した飲み会にも参加。これは相当幸せなことだと思う。最後に最近のエピソード



佐原駅にて(左から2人目が筆者)

を二つ。18年ほど前、つくばの画廊で催されたグループ展で買い求めたキタザワ氏の小品「月の夜」。それが今年あの同窓生の北澤氏であることを知ったのだ。同じ時代を生きた感性が響きあったのだ。そして極めつけは高校生時代ほとんど面識もない5人が50年の時を経て奇跡的に出合い、まるで旧知の仲のようにロードバイクにまたがりグループライドを楽しんでいる。ということでも多少のこじつけはあるが、題名としたこの説は何か説得力があるように思える。故に在校生諸君には

声を大にして言いたい。良い大学、会社に入ることが幸せだという幻想に囚われず、高校生時代を自由に謳歌してほしい! 高29回の皆様とともに母校の発展を祈る。

#### 電話ボックスと音楽室



高 29 回  
岩城(堀田)敦子

昭和四十九年、軟式野球部は夏に全国大会に出場し、秋に国体優勝を決めました。その歴史的瞬間に立ち会うことができたことが高校時代最高の思い出です。全国大会開会式、藤井寺球場の最上段から見るとユニフォーム姿は壮観でした。初戦はPL学園球場。対富山商戦は生憎の悪天候。表裏の攻防が終わると小銭を握りしめ公衆電話まで泥を跳ね上げて走りました。十円玉を投入しダイヤルを回す指ももどかしく、試合経過を学校に伝えるとまた球場へと走り出しました。その往復の道のりの遠かったことを今でもよく覚えていてます。十円玉が落ちていく音と息切れと自分の鼓動がないまぜになったあの電話

ボックスの数は忘れ難い体験でした。

軟式野球部部長の南畝先生には音楽の分野でもお世話になりました。「白幡」第36号掲載の音楽部の先輩方のご卒業後、音楽室は進路を音楽に定めた私たち五人組に徐々に占拠されていきました。早朝や昼休みには新校舎四階へ走りグラランドピアノをかき鳴らし、不慣れなイタリア歌曲などを歌っていました。隣の理科の先生方には騒音でさぞご迷惑をおかけしたことでしょう。そのような私たちに南畝先生は県芸術祭への出場の道を開いて下さいました。まるで遠足気分に参加した芸術祭でしたが、水戸のステージですれ違った他校の音楽家たち、進学後も再び出会うことがあり、今でも貴重な一日だったと思ひ返しています。

そして当時からの音楽室仲間と『音楽会』を開いて四十五年、令和の現在も活動継続中です。元同級生も多彩なジャンルで参加してくれたら、聴きにきてくれたら嬉しい再会の場にもなっています。

この度執筆の機会を頂き、思いがけず十代の自分に会えました。竜一にいたから行けた場所、できた経験が確かに

ありました。出会えた全ての皆様、ありがとうございます。



高等学校音楽祭（1976 年 11 月）

### 今の職場は甲子園



高 44 回  
荒木 一人

私は現在、プロ野球の公式記録員という仕事をしています。甲子園を含めた全国のプロ野球の試合が行われる球場に赴き、スコアを記しヒットやエラーなどの記録を決定する権限を持っています。大谷翔平選手の日本でのプロデビュー戦も担当しました。

私は硬式野球部に所属し、二・三年生で二度も甲子園に行くことができました。二年生の時は県大会を第 1 シードから順当に勝ち上がりましたが、三年生の時は県大会 6 試合のうち 4 試合を 1 点差で、そのうち 3 試合はサヨナラ勝ちという接戦を勝ち抜いての甲子園でした。甲子園の三回戦では、後にプロ野球やメジャーで活躍し国民栄誉賞を受賞した、当時二年生の松井秀喜選手を擁する星稜高校と対戦し、惜しくも 1 点差で敗れて最後の夏となりました。

この頃の松井選手はそれまで目立った活躍があったわけでもなく、「星稜で一年から四番を打っている」というくらいの評判で、前日のミーティングでも「打つ方より盗塁を警戒」という話でしたが、その試合で右中間スタンドに突き刺さるようなホームランを打たれたのは今でも目に焼き付いています。たくさんの野球を見てきた私ですが、あれ以上の衝撃は未だかつてありません。

私はと言えば、当時はそんな強いチームだったこともあり、ほとんど試合に出られませんでした。二年生の秋に練習試合の審判の手配ができ

ず、大竹先生から頼まれて球審をやることになり、自分のいうまく出来たと思っていたら持丸監督から冗談で、「審判の仕事でも紹介してやろうか」と言われた時に、「そういう野球の関わり方もあるのか」と意識し、これが今の仕事に就くきっかけとなったのは間違いありません。

プロ野球では試合前に場内アナウンスで公式記録員の発表もあるので、私の名前が呼



1991 年甲子園練習での集合写真

ばれたときに竜一高の同窓生だと気づいてもらえる嬉しんです。最後になりますが、白幡同窓生皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### 喜びと誇りを胸に



高 44 回  
宮本 恵子

今夏の甲子園は暑さ対策として二部制になった。そのため夜まで試合が続くこともあり、職場の東京から帰宅してテレビをつける高校野球が中継されていた。驚くと同時に懐かしさを感じた。私が在学中に野球部が 2 年連続甲子園に出場した。甲子園で勝利し在校生、卒業生が一体となつて校歌を大合唱したことは良き思い出である。今となっては、とても貴重な経験だったと感じている。ちょうど高校時代を振り返るよい機会となった。

社会に出て 30 年程たったが「もう一度やり直すならいつからがいい？」といった話を同僚たちとすることがある。私は迷わず「高校から」と答えている。理由は 2 つある。

1 つ目は楽しく有意義な時間を過ごしたからだ。龍ヶ崎で育ち、祖父や父が卒業生、1 歳上の姉も在学しており、だから私も当然高校は竜一高だと思い込み、なんとか入学することができた。ハンドボール部で、夏の暑さの中、走り回っていたことを、駅の階段で息切れをする今では、自分でも信じられない。勉強について強制されたという記憶はなく、皆が目標に向かって自主的に行っていたと思う。そういう雰囲気がとても好きだった。

2 つ目は歴史あるいは伝統というものに身を置くことができたからだと思う。長い歴史の中の一員になった喜びを感じ、誇りを持つことができたともいえるのではないだろうか。この 2 つはどんなに科学技術が進歩しても一朝一夕で獲得できるものではない。竜ヶ崎一高の多くの卒業生が築き、つないできたものに触れながら日々学んでいたのがある。私自身その伝統に恥じないよう生きていかなくてはと、ささやかながら思っている。そう感じさせてくれる母校にとっても感謝している。

最後に、竜ヶ崎第一高等学校のさらなるご発展と在校生、



卒業生のますますのご活躍を心より祈念し結びとする。

## 過去を変える出会い 「11点」から始まった 学びと再生の記憶



高 44 回  
和田 一郎

高校の記憶というものは、時がたつと往々にして「卒業後に塗り替えられた記憶」となる。いま獨協大学でデータサイエンスを教える私は、本校の卒業生が入学してくるたびに、自分の高校時代を思い出す。

高校入学時、H組に配属された。国語を担当したのは、このクラスだけ持ち上がりではなく毎年異動を繰り返す老教師。授業は教科書を淡々と読むだけで、板書も説明もない。1学期の中間試験では、H組の平均点が他クラスより11点も低かった。それでも先生は「努力不足」と私たちを責め、「教えられないとできないのはダメ生徒だ」と断じた。思わず私は、「先生が教科書を読むだけだからです」と口をついて出た。

それを境に、私はしつこく指名され、成績も理不尽に下げられた。納得できず、私はこの11点が生徒の努力不足なのかを検証し始めた。問題内容や出題形式、授業との整合性を分析するうちに、数学、なかでも統計学の力が役立つ面白さに気づいた。夏休みには水戸市三の丸の教育委員会を訪れ、分析結果を報告した(のちに茨城県庁で働くことになるとは、当時想像もしなかった)。

2年生になると、国語を担当したのは小田部雅子先生だった。明晰な授業と文学への深い洞察、そして生徒一人ひとりへの敬意。高校1年で学ぶべき基礎を欠いた私は、講義についていけず、国語への劣等感と理系科目への逃避を抱いていた。それでも先生は私を理解し、高校生クイズへの挑戦などを応援してくれた。

大学卒業後、進路で小論文が必要になったとき、取手駅で偶然小田部先生と再会し、添削をお願いした。返ってくる手紙には、技術的な指導以上に、私の思考と心情に寄り添う姿勢があった。そのとき初めて、文章とは「伝える行為」だと知った。書くという

行為は、苦しみを整理し、過去の意味を新たに書き換える営みでもあると、私は後に理解した。

いま私が教える統計やデータサイエンスという客観性の技法も、文章という主観の再構築も、すべてはあの11点の経験から始まった。もし小田部先生との出会いがなければ、私は高校時代を「不当な扱いを受けた被害者」としてだけ記憶していたかもしれない。

しかし小田部先生との出会いで学問と教育への情熱に転じることができた。私の一つの領域の研究である「トラウマからの回復」で見れば、過去は変えられないが、その意味は変えることができることの実体験であった。私の高校時代の記憶は、小田部先生のおかげで、「再出発の記憶」となった。

## 下駄箱



高 59 回  
福田(佐久間)弘子

高校時代の想い出として、最も鮮明に覚えているのが卒業後の下駄箱の風景である。

なかなか進路が決まらなかった私は、3月半ば頃まで何度も竜一に足を運んでいた。卒業式を終えた3年生の下駄箱には、もう誰の靴もない。その中に自分の靴が1つだけある——という、なんだか不思議な光景が記憶の中にずっと残っていて、受験シーズンや、我が子の授業参観なんかに行くとたびに頭にぼっと思い浮かぶのである。どうしてこの光景が強く印象に残っているのだろう。改めて振り返ると、慣れ親しんだ学び舎を離れる心細さを、ガラんとした下駄箱に重ね合わせていたのかもしれない。

竜一へ入学した当初から、熱意のある先生方に恵まれた。あの熱意がなければ、ぼんやりとした高校生活を送り、進路も全く違ったものになっていただろう。当時の進路選択が現在の自分につながっていることを考えると、竜一生であつたことの幸運が身に染みる。とりわけ、3年間ずっと同じ熱量でご指導いただいた担任の辻先生には足を向けて寝られませんか! 今では笑い話だが、自分の不甲斐なさにも辻先生の前で涙したこともあった。その後、他の先生方が優しく接してくださつてい

たのはきつと気のせいではないはず。温かいまなざしの中、学業面だけではなく、精神的にも大きく成長させていただいた高校時代。恩師の元を離れようとしていたあの時期の光景は、当時の私に強い印象を残したにちがいない。

早いもので、あの日から18年。ありがたいことに、今でも先生方との交流は続いている。

当時の想いや裏話を聞かせていただいたり、我が子の進路を相談してみたり。人生の先輩として、恩師からの学びはまだまだ尽きない。竜一生としてのご縁が今もずっと続いていることに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいである。

青春の軌道は、やり投げとともに



高 59 回  
東(宮本)理陽子

会報への執筆依頼を受けたとき、あれこれ思い返すまでもなく、「部活動」で埋め尽くされた高校生活だったなと、思わず笑ってしまいました。

高校1年生の春、陸上競技部に入ろうとグラウンドで見学していた時に、先輩に声をかけていただいたのをきっかけに、何気なく始めたのがやり投げでした。それが全国大会、そしてモロッコでの世界ユース大会へとつながるとは、当時の私には想像もできませんでした。

思い出すのは、仲間とグラウンドで笑い転げながら行った練習や、夜まで語り合った合宿や遠征の時間。トレーニング後、腕が上がりえない程の疲労感と、それに勝る達成感。試合前の緊張と高揚感——陸上競技は個人競技ですが、記憶に残っているのはいつも仲間との時間です。競技の厳しさの中で、仲間の存在が何よりの支えでした。競技を通じて、全国の同世代の選手たちと出会い、互いに刺激を受けながら成長できたことも大きな財産です。中には今でも親交がある、生涯の友人となった人もいます。やり投げがないでくれた縁は、私の人生に深く根を張っています。

恩師である栗山先生には、部活動だけでなく進路に迷った時にも親身に相談に乗っていただきました。すべての試合や合宿に付き添ってください

り、モロッコまで応援に来てくださったことは今でも感謝しています。また、試合を見られるのが恥ずかしかった私に、静かに応援を続けてくれたいた両親の存在も、二児の母となった今、ようやくその気持ちに気づくことができました。

竜ヶ崎一高で過ごした3年間は、私の価値観や生き方を形づくる時間でした。挑戦する勇氣、支えてくれる人への感謝、そして自分を信じる力。あのグラウンドで流した汗と涙が、今の自分をつくってくれたのだと思います。母校で過ごした日々は、今改めて深く感謝しています。竜ヶ崎一高の益々のご発展を心から祈念し、末筆ながら結びとさせていただきます。

### 不易流行



高 59 回  
東井 宏樹

竜ヶ崎市内で育った私にとって竜ヶ崎一高は憧れであった。幼い頃から「竜一」に入って甲子園を目指す」ことが私の夢。入学式での校旗入

場や厳粛で凜とした式典の雰囲気、心が震えたことを今でも鮮明に記憶している。当時の竜一は活力にあふれていた。もちろん勉強もできるが、良い意味で勉強第一ではない。部活動、学校行事に全力で取り組む「人間の厚み」のようなものがあつた。その中であふれていた明るく前向きなエネルギーが私の思う竜一らしさだ。



硬式野球部に入部した私の

高校生活は毎日が試練、鍛錬。下級生の頃はいかに今日という一日を無事に過ごすかばかりを考えていた。学校には野球をするために通っていたといっても過言ではない。当時の先生方には多くのご迷惑をおかけしたと思っている。最上級生となつてからは、どうしたら勝てるのか、どうやったら上達できるのかを考えての日々に変化した。宮本正和先生からは「人間の強さ」と「両極を理解すること」の大切さを学んだ。一冬明け、いよいよシーズンインとなる3月。私の手首は突如壊れた。全治3ヶ月。私の高校野球は3月で終わりを迎えた。しかし、選手としては使い物にならない私を三塁コーチとして役割を与え、ベンチに入れてくれた。監督さんの思いがうれしかった。私達の代は秋、春と地区予選敗退。夏も初戦負けと竜一史上最弱であるかもしれないが、あのグラウンドでの経験はどの代にも劣るものではないと信じている。

高校卒業後も監督さんの「東井、明日からノックな」の一言で、学生の身ながらコーチとして携わり、大学卒業後は高校教諭として茨城県

に採用され、今年で15年目を迎える。幸運にも高校野球に携わり続ける事が出来ている。教師としての自分の礎は間違いない。竜ヶ崎一高にある。時代とともに世界は変わり続けていく。しかし、本当に重要なことは変わらないのではないだろうか。縁あつて私と時をともにした生徒たちには私の持てるすべてをぶつきたい。

末筆ではございますが竜ヶ崎一高がこれからも「竜一」で有り続けること。白幡同窓会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### 高校生活に祈りを



高 69 回  
池野 辺 寿 弥

高校何年生の何月に戻りたい？「いや一日も...」。情けない記憶ですが、誰かの糧になればと思ふ筆を執ります。

硬式野球部に所属した僕の高校生活は、大部分が苦しい記憶です。印象深いのは高二の冬。自主練を終えて部室を出るのは毎日23時頃。疲労困憊の体と終わりの見えない冬



練に「なぜプロにもなれないのに、こんな辛い事を毎日しなきゃいけないんだろう」と絶望しました。今の努力が大局的な未来に繋がってない、と悟る瞬間が一番苦しいですね。きっとその時に忍耐力（ここでは未来から目を背ける力）が培われたと思います。

最後の夏はエースとして県ベスト8で敗退しました（野球応援に来て下さった方々には感謝申し上げます）。さて野球を終えた僕に、担任の先生は告げます。「このままだと○○大にもいけないよ」。僕、理系選択ですが……と思いつつ、残りの高校生活は4時間睡眠15時間勉強で、何とか理科大理学部合格しました。野球の時間がそのまま勉強に、甲子園が一日で考えた志望校に成っただけの半年間は今でも思い出すのが苦痛です。

ただ、必死に生きた高校生活で、無意識に培われた力に今の僕が支えられていると感じます。忍耐力、愛嬌、怒られた時の反省顔、机で快眠する寝方等。未来のない努力が、知らぬ間に自身の多面的な価値を形成したように思えます。

さて僕は東大で博士号取得

後、研究者の道を歩んでます。転機は19歳の夏、インドネシアでのボランティアの経験です。日本との歴然とした格差に大きな衝撃を受けました。そして途上国発展に貢献する方法を模索した末に、固体物理に行き着き、自分の人生を研究に使うと決心しました。世の中を変えるような発見には未だ至っておりませんが、夢に物理に日々挑んでいます。

最後に飯塚親弘先生、津脇義明先生をはじめとする僕の高校生活を彩って下さった全ての方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

追記 本題目はBEGINの曲「涙そうそう」に想起されたものです。要は、もう会うことのない大切な人へ感謝と幸福を祈るという趣旨です。亡くなった家族や友人、昔の恋人、そして過去の自分。思う事は山ほどあっても、今我々にできる事は祈りを捧げる事くらいしかない。しかし、自己完結で終わってしまいう行為でも、曲や文字を通して事で、第三者に何かを提示できるかもしれない。僕の高校生活が誰かの糧になることを期待し、十年前の追懐を添えて、すべての竜一に祈りを。

## 母校と私の人生

本の魅力、読書の楽しさ、図書館の意義を語り合つための場をつくる



高 48 回  
岡野 裕行

在校中に「大学では理系や文系という枠組みにとられない勉強がしたい」という気持ちが芽生えたことで、私は図書館情報学を自分の進路に選びました。図書館情報大学（現・筑波大学）に進学したことで、私の人生に「図書館」「読書」などのキーワードが現れてきました。本と人をつなぐ方法や書物文化などを学ぶ伝統的な図書館学と、情報検索やデジタル情報資源の活用などを学ぶ情報学が融合した図書館情報学は、文理融合の学際領域の学問であり、私の性格や興味関心にとっても合っていたと思います。一九九五年度卒の私たちの学年は、入試を控えた頃にウィンドウズ95が発売されるなど、インターネットが世の中に広まり始める社会の变革期に大学進学を迎えることに

なつたのですが、それは図書館という社会的装置が大きく変わり始める時期とも重なっていたのです。

現在は三重県伊勢市にある皇學館大学の教員として、主に図書館司書課程の科目を担当しています。本務としての学生指導のほかに、学外活動の機会も増えてきました。特に「本の魅力」「読書の楽しさ」「図書館の意義」などについて、各々に言語化してもらい取り組みに楽しさを感じています。これまでの図書館の一般的なイメージは、読書や調べ物をするための静謐な空間ですが、今日ではそのような印象が過去のものとなり、時代に合わせた新しい図書館像へと塗り替えられています。図書館とはコミュニケーションの場であり、人と人とのつながりや賑やかさを生み出すことも重要な機能の一つと見なされるようになってきました。一人で静かに本を読むことから身につく知識もありますが、それぞれの地域のなかで多様な他者と話したり、交流の機会を持つたりすることにも学びの形が見られます。図書館の社会的機能や役割について考えることで、私たちが一人ひとりに見合つた学びの

仕組みを構築することに図書館情報学のおもしろさがあります。

ここ数年のなかで私が関わってきた全国的な活動に、ビブリオバトルとライブラリー・オブ・ザ・イヤーがあります。「本を通して人を知る／人を通して本を知る」というキャッチコピーのもとに全国各地に広まったビブリオバトルは、現在では小中高等学校の国語の教科書にも掲載されるようになりました。私は二〇一五年から二〇二一年までの六年間にわたり、ビブリオバトル普及委員会の代表理事を務め、その普及活動に関わってきました。また、「良い図書館を良いと言う」という理念のもとに、その年でもっともすぐれた図書館の活動を表彰するライブラリー・オブ・ザ・イヤーについては、二〇二一年から現在まで選考委員長のお役目をいただいています。そのほかにも、二〇一五年から伊勢河崎一箱古本市というイベントを主催しており、指導している学生たちとともに、地域の人たちの交流を促すための仕組みづくりを続けています。いづれもボランティアとして活動に関わっていますが、みん

なのを考える「おもしろい本」「楽しい読書」「良い図書館」について、各々の主観的な言葉で語り合うための場をつくり上げることはとても楽しい取り組みだと感じています。

インド生まれの図書館学者のランガナタン（一八九二～一九七二年）は、「図書館は成長する有機体である」という言葉を遺しています。まるで生き物のようにその姿形が変わり続ける図書館の未来の姿を想像しながら、私たちの言葉を語り遺していくための仕事にこれからも邁進していきたいと思っています。

（皇學館大学文学部国文学科 准教授）

## トピック①

### 北澤茂夫氏 神宮美術館に招待出品

今春、伊勢の神宮美術館にて開催された特別展「夢―歌会始御題によせて―」（4月24日～5月27日）に高29回の北澤茂夫氏（横浜美術大学名誉教授）の作品が展示されました。

そこで、龍ヶ崎市内の北澤氏のアトリエを訪問し、特別展のことやその他いろいろとお話を伺いました。



「夢の時」  
2018年第72回二紀展出品  
2025年神宮美術館出品

### ★神宮美術館特別展

神宮美術館では、毎年の嘉例として、皇室の歌会始の御題によせた特別展が開催されます。今回の御題は「夢」でした。現代美術家の作品33点が展示され、その一つに北澤茂夫氏の作品「夢の時」が選出されたわけです。

### ★展示作品「夢の時」

「今回の選出は大変光栄なこと、大学退職後の一つの節目となったようにも思います」

「この作品のように、画面に登場する夢想する人には、読書と映画に夢中だった少年期の私が投影されています。

私は、芸術作品とは、現実世界から離れる時間を与え、新たな活力と生きる力を生み出すものだと考えているのです」

### ★絵画を始めたきっかけは？

「もともと絵が好きだったのですが、高一の時に友人に刺激され油絵を描き始めました。最初は技法書などを見ながら手探りで描いていました。その後、様々な指導者からのアドバイスを受け、自分の思いやイメージを表現することのできる絵画にとっても魅力を感じて、筑波大学芸術専門学群、さらに同大学院に進学しました」

### ★画家としての活動について

卒業後は福島県のいわき短期大学に23年間勤務、その間には文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリの国立高等美術学校で一年間絵画技法を研究しました。

2006年からは横浜美術短期大学、2010年から横浜美術大学であわせて17年間勤務し、絵画の専門教育と大学運営や学生支援に取り組みながら作品制作や研究に没頭しました。

2023、24年、退職を記念して横浜市民ギャラリー

あざみ野とつくば美術館で「横浜美術大学退任記念 北澤茂夫 幻視と夢想のイマージュ」を開催しました。

恒例の活動としては「二紀展」「茨城現代作家美術展」「茨城県展」「うしく現代美術展」出品などがあります。

「これからは龍ヶ崎市在住の画家として、東京などでの展覧会活動が続けながらも、地元での活動にも力を入れようと思っています。現在は自宅アトリエの他に砂町の倉庫兼第二アトリエで、制作や展覧会準備などを行っています。来年4月には、砂町にできた『町屋アートギャラリー』とこの第二アトリエとの共催で個展を開催する予定です」



「定められた時」  
1987年第51回二紀展出品  
（筑波大学蔵）

### ★竜一高の後輩に向けて

「私は小学校の時に2年間の入院生活を経験しました。そのため、普通あまり経験しないようなことを経験しています。いわば負の経験でしようか。しかしそのことが私に芸術への関心をもたらし、幻想的な絵画表現を生み出すことにつながりました」

「後輩の皆さんに伝えたいことは、若い時の経験に無駄なものはないということです。どのような経験も本人の意識の持ち方によってプラスに変えられる、と思っています。特に、若さには変化に対応する柔軟性と可塑性があるからです。そして、自分がやりたいことを見つけ、それを継続して追求してください。よく言われることですが『継続は力なり』です」

「もう一つは、読書により視野を広げることの大切さです。困難なときは誰にでもあります。そうした時に、読書によって多くの擬似的人生や思考を経験することは、霧の中から光を見出すための手掛かりになります。是非若い時にたくさん本を読んでください」



1975年夏の全国高校野球選手権茨城大会にて、全6



## 関口一行氏の講演会

### トピック②

(文責 川口 浩二)

《主な受賞歴等》  
昭和56年第35回「二紀展」に《考察・私の存在(B)》で初入選。以後、二紀展出品を続ける。平成3年第2回浅井忠記念賞展、4年第10回日伯現代美術展で安田火災美術財団奨励賞。10年第4回春季二紀展で東京セントラル美術館賞。27年第12回春季二紀展会員優賞、第69回二紀展宮本賞受賞。



自宅アトリエにて (2025 年 6 月)

試合54イニングス(回)連続無失点記録を樹立して優勝、甲子園出場を果たした関口一行(高28回)氏が、10月26日の稲敷市合併20周年記念特別展講演会にて「夢の軌跡」スポーツを通じての出会いと学び」をテーマに講演を行いました。



関口氏は稲敷市に生まれ、幼い頃日本中の多くの男の子が夢中になったアニメの『巨人の星』にとっても影響を受けたといいます。そして、甲子園に出るといふ大きな目標を常に忘れることなくその目標達成のために、菅原進野球部監督宅に下宿しながら高校生生活を送っていたそうです。

この講演では、高校、大学、社会人での野球の経験、そしてプロサッカー界での経験を中心にスポーツを通じての出会いと学びについて会場を埋め尽くした満員の聴衆に向かって時には笑顔とユーモアを交えながらお話しになりました。

講演会の最後には、当時の

野球部マネジャー川尻一枝様から花束の贈呈がありました。



今回は、稲敷市市制施行二〇周年記念の特別展「1975年夏、茨城に伝説のエース出現! 関口一行、54イニングス連続無失点記録の軌跡」が稲敷市立歴史民俗資料館で8月22日から11月22日まで開かれ、多くの来館者がありました。

(文責 倉持 正男)

※関口一行氏から同窓生への皆様にメッセージを頂戴しましたので、掲載します。

稲敷市市制施行二〇周年記念特別展・講演会を終えて

小さい頃からの夢であった、甲子園という憧れの舞台に立ちたい一心で、本格的に野球に打ち込んだ高校時代でした。現在とは大きく違う環境の中で野球に取り組んでいましたが、何が自分の心と体を

動かしていたのかを振り返ると、根底にあったのは、「結果を出すためには厳しい鍛錬をするのは当たり前」という意識だったと思います。投手としての練習は勿論のこと、打撃、守備、走塁練習など、全ての練習において、勝つためにどうすれば良いかを常に意識し、試合と同じような緊張感の中で取り組んでいたと記憶しています。当時は、

投手を中心とした守りの野球が主流で、竜ヶ崎一高も伝統的にそういう戦いを積み重ねてきていました。入学当初から、恩師である菅原監督、持丸先生をはじめ、OBの方々などから、チームにおける投手の重要性を指導頂き、そのことが高い志を醸成し、そして結果に繋がったのだと思っています。この高校時代に培われた「厳しい鍛錬は当たり前」、そして「投手を中心とした守りの野球」という考え方は、その後の大学時代、社会人時代と続く、私の野球人生のベースになってきたことは言うまでもありません。良き指導者、良き仲間恵まれて、達成できた甲子園への出場と無失点記録ですが、野球だけに限らず、これまでの人生の大きな支えになってきま

した。そして、今回の企画でそれを再認識することが出来ました。稲敷市、竜ヶ崎一高をはじめ、関係者の皆様により感謝を申し上げますと共に、特別展、講演会へご来場頂いた皆様に、深く御礼を申し上げます。

関口 一行

### トピック③

浦和高校視察報告



7月15日の午後、埼玉県立浦和高校の同窓会館を関口会長外3名が訪問しました。

浦和高校は今年の7月に創立130年を迎えた埼玉県内では最も歴史のある高校であり、その同窓会である「麗和会」は現在、一般社団法人並



びに公益財団法人として様々な同窓会活動を実践しています。

麗和会は長い歴史と伝統があるばかりでなく、未来を展望した先進的な同窓会組織として、他に類を見ない輝かしい実績をあげ続けています。

現在白幡同窓会が抱えているいくつかの課題について、その活動実践から何か得られるものがあるのではないかと、思いに駆られて浦和高校同窓会を、関口会長、有川副会長、櫻井副校外幹事長と倉持事務局代表が訪問しました。

私達のために貴重な時間を割いてくれたのは、香田寛美副会長、篠田雅彦事務局長、藤野龍宏事務局次長のお三方でした。篠田様と藤野様は常勤扱いということでした。

主にお伺いしたことは次のような内容です。

- ① 浦和高校同窓会法人化のメリットとデメリット
  - ② 一般社団法人浦和高校同窓会の定款について
  - ③ 代議員（社員）の選出について
  - ④ 年会費（白幡同窓会では協力金に相当）の納付状況について
  - ⑤ 法人解散の条件等について
  - ⑥ 奨学財団の目的および運営について
- 詳細についてはここでは触れませんが、現在多くの同窓会が直面している④の年会費の納入率の低下については、麗和会も例外ではないということでした。
- 任意団体としてではなく、法人として白幡同窓会を組織運営できるかどうかを検討するのが主な訪問目的でしたが、現状での法人化の方向性とはとも難しいと判断しました。
- 今後も白幡同窓会のより良い在り方等について、さまざまな視点からねばり強く検討を重ねていきますので引き続きご支援をよろしく願います。

（文責 倉持 正男）

#### トピック④



会報「白幡」が、「同窓会のチカラ」に紹介されました

同窓会のための情報誌「同窓会のチカラ」2025年号（第17（編集・発行 株式会社サラト））に白幡同窓会報の取り組みが紹介されました。ここに転載します。



高 27 回  
倉持 正男

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校白幡同窓会の同窓会報では、2022年発行の第34号から、新たな試みとして読者プレゼント企画を開始した。同窓会報は情報発信の重要なツールだが、一方通行になりがちという課題意識があっ

た。そこで会員との双方向コミュニケーションを促進し、同窓会報への関心を高め、ひいては同窓会活動の活性化に繋げたいという思いから、この企画をスタートさせたという。本誌は企画の立案から運営までの中心人物である同窓会副会長の倉持正男氏（高校27回）に伺った。

読者プレゼント誕生秘話  
双方向コミュニケーションへの模索

読者プレゼント企画は、数年前に同窓会役員会で発案したものだ。会報をより魅力的なものにし、会員との繋がりを強化したいという思いから、一方通行になりがちな情報発信のあり方を見直す動きが出てきたのがきっかけだった。

当初は、記事の内容に関連したクロスワードパズルなどを掲載し、解答者を対象にプレゼント企画を行う案を検討した。しかし、クロスワードパズルでは特定の会員層にしかな響かない可能性があること、記事の内容に合わせたクイズ作成の難しさなどから、この案は実現には至らなかった。その後、試行錯誤を重ねる中で、同窓生が制作・提供した作品などをプレゼントする

という現在の形に落ち着いていた。同窓生の作品をプレゼントすることで、会員同士の繋がりを深め、同窓会報への関心を高める効果も期待できると考えた。

#### 第1回読者プレゼント

野球部監督のサイン本

2022年発行の第34号で実施した第1回読者プレゼントでは、野球部監督のサイン本をプレゼントした。応募方法と同窓会ホームページからのみとし、応募状況や会員情報の集約を効率化するとともに、ホームページの活用促進も狙った。

初回の応募数は23件と少なかったものの、新たな試みへの手応えを感じた。当選者決定は、役員会での厳正な抽選によって行った。

#### 第2回読者プレゼント

ティーポットと写真集

続く第2回読者プレゼントでは、私の同級生である陶芸家によるティーポットとティーカップのセット、そして「牛久沼」をテーマとした写真集（卒業生の写真家が製作）をプレゼントした。

ティーポットは、同級生である陶芸家が以前から同窓会



総会出席者への記念品として「オリジナル校章入り湯呑」を制作しており、受け取った卒業生からも大変好評で、欲しいという声が多数寄せられたことから、別の作品を読者プレゼントとすることに決めた。



写真集は、同窓会報の記事で紹介した卒業生(写真家)の作品だ。同窓会報との連動を図り、記事で紹介された人物や作品にスポットライトを当てることで、会報全体への関心を高める狙いがあった。

## 苦勞と喜び

**会報活性化への挑戦**  
読者プレゼント企画は、プレゼントする品の選定や応募方法、抽選方法など、様々な面で試行錯誤が続いている。苦勞もある一方、会員から寄せられる「ぜひ欲しい」「興味深い」といった声は、会報

活性化に向けて取り組む大きな励みになっている。

特に、応募の際に寄せられるコメントは、会員の生の声として貴重な情報源になっている。「卒業生による牛久沼の写真集があったとは知らなかった」「こういう企画を待っていた」といった感想は、今後の会報作りに活かしていきたいと考えている。

## 同窓会報の未来 双方向コミュニケーションを目指して

同窓会報は、「同窓会と会員を繋ぐ大きな絆」だと考えている。会員にとって価値のある情報はもちろん、読みやすさや魅力的なコンテンツも重要だと考えており、読者プレゼント企画はその一環として位置づけている。

今後は、読者プレゼント企画を継続していくとともに、会員の反応を見ながら内容をブラッシュアップしていく予定だ。双方向のコミュニケーションを促進するための新たな仕掛け作りにも意欲的で、同窓会報を通して会員の心をつかむ活動を続けていきたいと考えている。

## トピック⑤

農林水産部門で天皇杯を受賞した横田修一氏による講演会の開催

今年度の講演会は有限会社横田農場代表取締役横田修一氏(高46回卒)にお願いしました。



横田修一氏は現在、龍ヶ崎市を中心に約177ヘクタールの圃場において8種類の米を生産しています。

その生産量は約950トン、おおよそ年2万人の消費を支えています。

横田氏の米作りに対する姿勢は各方面から高い評価を得て、2013年の農林水産部門における天皇杯の受賞をはじめ、多くの賞に輝いています。

昨今の米不足・高騰の中でタイムリーな講演になると思います。どうぞ皆様、足をお運びください。

## 開催日

平成8年2月23日(月・祝)

主催 白幡同窓会  
会場 大昭ホール龍ヶ崎  
(龍ヶ崎市文化会館)

時間 開場 13時  
開演 14時

募集人数 100名  
(講演時間60分程度)

申込方法 (事前申込み、先着順)

QRコードまたはURLから申し込んでください。  
電話による申し込みは受けできません。



<https://forms.gle/Pmu3incYWXm999K9>

Pmu3incYWXm999K9

## 白龍祭委員会

今年も焼き餅屋を出店

6月7日(土)、白龍祭が一般公開されました。天候にも恵まれ、多くの皆様にご来場いただく中、今年も同窓会

で焼き餅屋を出店させていたできました。40人近いOB OGの卒業生が参加して、焼き餅1,100個を完売しました。



なお、売り上げ余剰金の34,844円は生徒会に寄付をしました。



## 白幡同窓会ホームページもご覧ください



トップページ

URL : <https://shirahata.sakura.ne.jp>



お問い合わせ



### リレー連載への掲載についてのお知らせ

白幡同窓会ホームページの「リレー連載」への投稿を希望する方は下記のURL及びQRコードで掲載希望連絡フォームを開き、原稿の掲載希望を申し出ることができます。

<https://forms.gle/VuWw2Kf69aSJt9ff8>



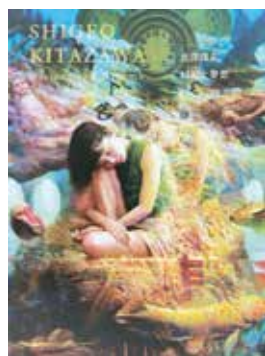
これまでの「リレー連載」に目を通したうえで、掲載希望連絡フォームを開き、フォームに記載されている説明をお読みください。

### 読者プレゼント①

北澤茂夫氏の画集を3名に贈呈

高29回卒の北澤茂夫氏から同窓会に、画集「幻視と夢想」の3冊が提供されました。この画集は現在アマゾンでも販売されているものです。

希望する方は、画集「幻視と夢想」を選択して同窓会HPからご応募ください。抽選により3名に贈呈いたします。



「幻視と夢想」

### 読者プレゼント②

岡田清一氏の著作3点をそれぞれ1名に贈呈

高17回卒の岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授）から同窓会に読者プレゼント品として次の3点の著作の提供がありました。

- ① 鎌倉殿と執権北条130年史
- ② 相馬一族の中世
- ③ 北条義時

希望する方は、希望する本1点を選択して同窓会HPからご応募ください。抽選によりそれぞれの本を1名に贈呈いたします。



### 読者プレゼントの応募方法

左のQRコードまたは、令和8年2月28日（土）までに、白幡同窓会HPから申し込んでください。

プレゼントの発送は令和8年4月上旬を予定しています。



<https://forms.gle/T9Y8fQKpChDcdA96>



## 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 進路指導部

(私立大学は合格延べ数)

## 附属中学校

附属中学校が開校して六年目となり、高3まで附属中の卒業生が在籍する年となりました。附属中学生は、自分のグッドモデルである先輩達を見て自分の未来を想像することができるといって、大変恵まれた環境で生活しています。

六月には、白龍祭がありました。高校生と同じように飲食したりイベントに参加したりして、大いに楽しむことができました。また、クラス企画は、三学年とも「お化け屋敷」でしたが、どの学年も個性を発揮し、協力し合って運営することができました。



九月の飛龍祭では、学年だけでなく中高の壁もなくし、六つの連合チームで活動しました。中1から高3まで同じチームメイトとして競技に参加したり応援したりしている姿は、まさに中高一貫教育の良さを体現していました。

パフォーマンスでは、中学生全員で息の合ったダンスを披露し、附属中初のパフォーマンス賞を受賞しました。



## 社会課題の解決に向けて

本校は、社会課題を解決するイノベーターを育てるため探究に力を入れています。中学生も高校生と同様に、実際に地域に繰り出し、本物の課題を見つけ、その解決に向けて活動しています。

例えば、「市中心部の空洞化」をテーマに活動しているある班は、主に若者をターゲット層としたマーケティングを計画し、商店街店舗「まいんコロッケ」の商品「おさつコロッケ」を用いたデザイナートメニューを考えました。試食会やアンケート等を通して改良を重ね、販売を目指しています。



また「伝統と文化」をテーマに活動しているある班は、竹灯籠アートで町を元気にし

ようとしている方に取材し、竹灯籠製作のボランティアにも参加しました。



## 英語プレゼンテーション フォーラム県大会出場！

中3の四名（小山・佐久間・田口・平野）が、茨城県教育研究会長賞を受賞しました。茨城弁を活用して県の魅力アップを図るという提案を英語で行い、聴衆を魅了しました。



## 校外での活躍

〈龍ヶ崎市総合体育大会〉

○女子ソフトテニス

団体 2位

個人 小野・中澤 3位

佐久間・小山 8位

○軟式野球 3位

○男子バレーボール 2位

〈県南総合体育大会〉

○水泳

200 M 平泳ぎ 新田 3位

〈龍ヶ崎市新人体育大会〉

○女子ソフトテニス

個人 横山・関口 3位

○柔道 2位

男子 50 kg 級 横尾 2位

○水泳 5位

200 M 背泳ぎ 齋藤 5位

\* \* \* \*

○国土交通省主催「全日本中学生水の作文コンクール」

山本華穂 茨城県優秀賞

○科学の甲子園ジュニア茨城県大会

大高・益子・根本 県教育長賞

県教育長賞

県教育長賞

（附属中教頭 永野 絵里）



## 部活動の主な成績

(令和7年4月～9月)

## 陸上競技部

今年の関東高校総体は、六月一三日から一六日まで栃木県宇都宮市にあるカンセキスタジアムで行われました。陸上競技部からは、男子四〇〇メートルで県総体において四位に入賞した宮本柁一郎(三C)と六位に入賞した長谷川廉(三E)の二名が出場しました。残念ながら、自己記録の更新や入賞とはなりませんでしたが、二人とも自分の全力を出して最後の公式戦を走り抜けてくれました。どちら

も高校から陸上競技を始めた選手で、実質二年間という短い練習期間の中で自分の才能を大いに開花させた選手です。これからは自分の進路実現に向かって全力を出していくることと期待しています。また、関東大会まで進めたのも、周りの方々の応援や支援があったからこそだと思っております。これからもOB、OG、保護者の方々のご指導をお願いいたします。

(顧問 本田 歩)

## 射撃部

今年度の関東大会(6月・神奈川県伊勢原市)では、玉山聡人(3年)がチームライフル男子5位を獲得した。全国高校選手権大会(8月・広島県安芸太田町)では、玉山があと0.2点で入賞というところまで健闘した。ここ2、3年で関東・全国大会のレベルも上がってきているが、本校も高校生だけではなく、中学生も積極的に活動しており、中・高の部員同士が切磋琢磨している。来年度は関東・全国大会においてさらに上位入賞できるように、生徒とともに精進していきたい。



最後になりますが、射撃部がこのように活動できるのは同窓会の皆様のご支援の賜物です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願っています。

(顧問 小野 雅央)

## 棋道部

六月四日に水戸で行われた全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦で、一年の鬼澤陸が優勝し、八月二十日・二十一日に福岡で行われた全国高等学校将棋竜王戦への出場を果たした。残念ながら予選突破を果たせなかったが、強豪との対局やプロ棋士との

指導対局が、本人にとっては良い経験となったことであろう。



今回の大会出場に際し、白幡同窓会から多大なるご支援を賜り、ありがとうございます。また、八月三日には、白幡棋道会(棋道部OB)と棋道部との合同練習会を開催することができ、部全体のレベルアップができたことも大変ありがたいことです。ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(顧問 坂本 伸吾)

## 定時制より

定時制課程は、4年間で歩む学びの道。今年4月、11名

の新しい仲間が加わり、今は52名の生徒が、それぞれの未来を信じてこの校舎に集っています。

夕刻、定時制の生徒が登校し、一日の学びが始まります。最初に迎えるのは、給食室での温かな夕食。栄養士が細やかに心を配り、調理員が真心を込めて作った食事は、彼らにとって力を与えてくれる希望の一皿です。その後は夜の教室での授業。全日制と共用の教室で懸命に学びます。教職員は、一人ひとりの生徒の心に寄り添いながら、明日に向かう力を育んでいます。「三修制」を利用し、2年次から県立水戸南高校の通信教育を併修しながら3年間で卒業する道を選ぶ生徒もいます。その選択は決して楽なものではありません。それでも挑戦する姿に、周囲は勇気をもらいます。また、対面式、白龍祭、県内の定時制・通信制高校が一堂に会してスポーツ競技を行う「定通大会」、校内での進路ガイダンスや講演などの行事を通して、生徒は互いに協力し合いながら、それぞれの道筋を描いていきます。

夜の校舎に灯る教室の明かりの中で、真剣に学ぶ生徒達。その学びを支え続ける教



職員。そして皆様からのご支援を力に、それぞれの明日への確かな一歩を、これからも歩み続けてまいります。

（定時制教頭  
高山 雅子）



定時制の教室

## 同窓会会員名簿の発行

令和 7 年版「白幡同窓会会員名簿」が発行されました。名簿の発行にあたり、同窓生並びに現旧職員の皆様にはご理解とご支援を賜りましたこと心から感謝申し上げます。

この同窓会名簿が、母校への郷愁を誘い、会員相互の架け橋となる一助となれば幸いです。



同窓会名簿の扱いには個人情報保護の観点により、細心の注意を払ってまいります。

なお、住所変更等の情報につきましては、同窓会HP、または同窓会メールアドレスまでお寄せくださいますようお願い申し上げます。

## 表紙絵作者コメント

高47回 中川 彩

（中島 迂生）

今回、表紙絵のお声掛けをいただいて、こんなふうにお役に立てるのかとうれしく思いました。

海外に住んでいたときに突然コロナが始まってそのまま何年も帰れなくなり、ようやく帰国が叶ったのが最近のこと。

この四月、同窓会総会に呼んでいただき、久しぶりに母校を訪れました。いろいろは坂の桜、今年は見え

るかな。

車で来ると、坂へ上がる道と、その手前を奥へ曲がる道と二すじあって、いつも一瞬迷う。桜の木のあるほう、と目印にしていました。

ところが、この日来てみたら、あれ、桜がない？

なんと、知らない間に伐り払われている！…のつぺらぼうな坂を登りながら、びっくり。大津デパートに来てみたら、いきなり更地になっていた、みたいでした。

校長先生も去年の会報で取り上げられていた小説「成瀬は天下を取りにいく」。長年親しまれた西武大津店の閉店が決まり、カウントダウンとともにテレビの中継が入ること。主人公の成瀬は、毎日「ありがとう」と書いたマスクをつけて足を運ぶ…。

いろいろは坂の桜は二〇二三年の暮れに、数本の若木を残して伐採されたそうです。私も「ありがとう」を言う時間がほしかったな。そんな気持ちをこめて描きました。

※いろいろは坂の桜については、多くの関係者の皆様のご協力の下、詳しい調査を行いましたので、今後同窓会HPでご報告する予定です。

## 学校と同窓会との意見交換会を実施

今年度の同窓会事業に新たに「学校との意見交換会」を企画し、学校の全面協力の下令和 7 年 11 月 27 日にその会を実施しました。

同窓会活動等について直接説明したり、学校の教育方針等について学校現場でその詳細を伺うことは、これまで以上に相互理解を深め、それぞれが抱える課題を確認すると同時に、課題解決に向けた方向性を共有することができたのではないかと思います。

学校からは、太田垣淳一校長外 4 名、同窓会からは関口広行会長外 2 名が参加しました。

会議後は、今年 9 月に全面的にリノベーションした特別棟を松延亮一教頭に案内してもらいました。その後、午後の授業を参観しました。会議の詳細については、同窓会HPで報告していきますのでぜひご覧ください。

## 寄付金に感謝

高22回卒の3Eクラス会様より白幡同窓会に17,292円の寄付がありました。心から感謝申し上げます。

## 編集後記

今回初めて表紙に装画を採用しました。写真とは異なる象徴性があり、いろいろは坂にいろいろな思いを抱いている同窓生にとっては、あらためて母校を振り返るよい機会になったのではないのでしょうか。

### 恩師を訪ねて

第3回目の恩師は竜一高では初めての女性管理職になった松本君代先生です。

### 同窓会便り

今回は5つの同窓会（11回、17回、26回、28回、30回）が開催されました。

### 母校の想い出

来年の同窓会総会への招待学年（19回、29回、44回、59回、69回）の卒業生に寄稿してもらいました。

### トピック等

今回は5つのトピックを掲載しました。それぞれの内容に興味関心を持っていただけたら幸いです。

### 会報編集委員

倉持 正男（高27回）  
篠塚 文男（高28回）  
川口 浩己（高29回）  
有川 保（高33回）  
霜村 裕通（高33回）  
磯山 佳美（高34回）  
岩崎 卓士（高37回）